

こころの救急箱 通信 第15号

2018年9月

発行：特定非営利活動法人 こころの救急箱 事務局：電話・FAX：06-6942-9092

Eメール cocorono9090baco@kpa.biglobe.ne.jp

URL <http://www.cocorono99baco.or.jp>

相談電話：06-6942-9090（月曜日夜8時～火曜日朝3時）



「男の悩みに寄り添って」

『男』悩みのホットライン相談員

安部 達彦

『男』悩みのホットラインは1995年11月に始めました。

1990年頃、私自身（安部）が、自分や周りに現れる暴力的な出来事に悩んでいた事が始めるきっかけでした。大好きな娘を、カッとしてたたいてしまう自分が嫌だけれど、どうしていいか分からない。仕事関係で声の大きい威圧的な男の意見が通ってしまう。暴力ってなんなんだ、と悩んでいました。

そんな時、アメリカの本「learning to live without violence」（邦題『脱暴力のプログラム』）を知り、メンズリブ研究会で呼びかけて、翻訳と輪読会を始めました。当時まだ日本に、DVという言葉やジェンダーという言葉がなかった頃です。この本は、ジェンダーの視点から、男と女の関係性を解き明かし、どうやって脱暴力に向かうのか、どういうコミュニケーションを取ればいいのか、が書かれていました。

怒りは大切な感情であり、表現方法が様々で、暴力を使わない方法を選択する事。

話し合うとは、相手を言い負かす事ではなくて、なぜそう思うのか、お互いの気持ちを確認し合う事が大切な事。気持ちが通じ合えば、たとえ意見が違ったままでも、相手と親密になれる事。などなど。

翻訳が終わった後、輪読会で話し合っ得た大切な事を、自分の暴力を止めたいと思って苦悩している男達に伝えたい、それを通して、被害者の役に立ちたいと思ったのです。でも、当時の日本にはDVという言葉もなく、加害者のための電話相談が社会に理解されるか分かりません。そこで、メンズリブ研究会で男の抱える多くの悩みを話しあった経験を生かして、男だったらどんな問題でも受け付ける、という形の電話相談を考えたのです。1年間の研修でカウンセリングマインドを学んだ後に始めました。

最初、相談の内容が多かったのは、性に関わる多くの悩み、夫婦関係の悩み、親子や親類関係の悩み、仕事の悩み、などでした。今の社会、文化の中で生きているが故に持つ男の、暴力の問題、支配欲の問題、感情表現が苦手、仕事第一、などの問題が、DV、セクハラ、パワハラ、コミュニケーション不全、引きこもり、自死など、男性の方が多という現実を生んでいます。男らしさの鎧を脱いで、もっと楽に生きていける社会を作りたいものです。

※ ジェンダー：生物学的な性別に対して、社会的・文化的に形成される性別。作られた男らしさ・女らしさ。